

若手研究『抑うつ的反すうに対する脱フュージョン手続きの効果の検討とその効果測定法の開発』（R1-R4）

研究課題番号：19K14462 研究代表者：茂本 由紀 臨床心理学部 講師

（概要）

本研究の目的は 1) 抑うつ的反すうに対する脱フュージョン手続きの効果を検討し, 2) 脱フュージョン手続きの効果測定法を開発し, その妥当性を検討することである。本研究では, うつ病の発症および維持要因となっている抑うつ的反すうへの有効な介入手続きの確立と, 臨床的に有用なアセスメント方法を確立するため, 上記の 2 点の目的を設定した。まず, 1) の目的を達成するため, まず, 抑うつ的反すうの傾向の高い大学生を対象に, 抑うつ的反すうに特化した脱フュージョン手続きの効果を検討する。次に, 抑うつ的反すうが高い投薬治療のみの患者を対象に, 脱フュージョン手続きの効果を検討する。次に, 2) の目的を達成するべく, まず, 茂本・武藤 (2018) が開発した効果測定法である漢字迷路課題 (以下, KMT) を改良した KMT ver.3 を開発し, その妥当性を検討する。次に, KMT ver.3 が, 臨床上でも有効であるかを検討するため, 抑うつ的反すうの傾向の高い一般成人を対象に測定法の妥当性の検討を実施する。本研究の達成により, 抑うつ的反すうへの有効な介入法を確立することが可能になる。また, 臨床上有用な測定法を開発することで, 臨床場面において正確なアセスメントが可能になる。